

ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0042 千歳市東雲町3丁目2-6 千歳商工センター3階

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2026年8月26日発行 【再刊第50号】

今号の話題

- 市民納涼盆踊り大会
市民夏まつりフィナーレ飾る
- 清流千歳川の魅力を発信
リバーシティ×ちとせ川ビール祭り
- 9月20市民パレード
千歳市空港開港100年記念

美笛キャンプ場

防災デイキャンプ開催

アウトドア知識で命を守ろう

体験通して防災意識高める

千歳観光連盟は『家族でチャレンジ！防災デイキャンプ』を8月17日、市から委託された指定管理者として管理運営する美笛キャンプ場で開催しました。日本キャンプ協会キャンプインストラクター・川手有沙さんが講師を務め、防災に役立つ講話とキャンプ用品を展示。参加者には万が一の災害発生時に役立てられるキャンプ用品やアウトドアの知識について学びを深めてもらいました。

水の確保や火の安全、食事やトイレの確保など、アウトドアの知識やスキルを通じて災害時や緊急時にも役立つさまざまな防災グッズや非常食、長期保存食などの展示や試食、ワークシoppを通して

て、市民に防災意識を高めてもらうことを目的としたイベントです。

会場となった同キャンプ場では、川手さんが少ない水での調理や洗い物を減らす工夫、常温で保存できる食品の使い方を説明。「キャンパーの強みは防災グッズをただ使えるだけでなく、実際に使って性能や減り具合を知って



多くの家族連れが参加しました



非常食の展示も関心を集めました

いること」として、煮る・蒸す・炒めるができるメスティン、こげつきにくいマルチグリル、時短・節水になるホットサンドクッカーなどを紹介。耐熱性の高いポリ袋に食材を入れて湯煎するだけで料理ができることも解説しました。

その後、「携帯トイレ」「水の運搬」「簡単クッキング」「火起こし」の4グループに分かれて体験活動を行う時間も設けました。

非常食や長期保存食などの展示・試食体験のほか、美笛キャンプ場宝物探しビンゴ、トンボのクラフトづくり体験なども織り交ぜ、大人から子どもまでが楽しめる企画となりました。

盆踊りでゆく夏惜しむ

中心市街地に踊りでにぎわい

市民納涼盆踊り大会

千歳市民納涼盆踊り大会が8月20、21日、グリーンベルトお祭り広場を会場に開催されました。約

「空港開港100年ということ
で、大いにこの盆踊りを盛り上げていただきたい」とあいさつ。

1カ月間のロングラン開催となった千歳市民夏まつりのファイナーレには多くの市民が訪れ、お祭り広場に組み立てられたやぐらを中心に、北海盆歌や千歳音頭に合わせ

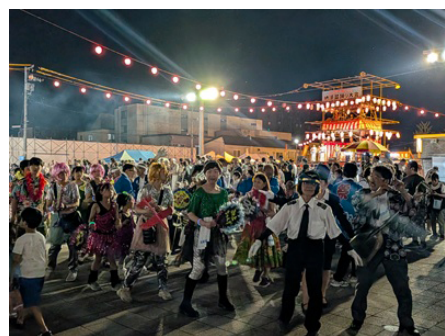
出場チームは思い思いの法被（はっぴ）や浴衣をはじめ、空港開港100年を記念し、大正時代に北海1号機を迎えるための着陸場造成に関わった千歳村の村民に扮した参加者もいて、観

た。

20日は子供盆踊り唄も交えて、大人も子どもやぐらの周りで踊りを楽しみました。21日に開かれた中心市街地を練り歩く千歳の夏の風物詩である盆踊り大会には、今年27チームが出場しました。大会に先立ち千歳市民夏まつり実行委員会の齊藤元彦実行委員長は



やぐらの周りで踊りを楽しむ市民がたくさん参加しました



さまざまな扮装の市民が参加したパレードが会場を盛り上げました

衆の目を引きました。自衛隊チームによる威勢の良いかけ声と躍動的な踊りのほか、市役所チームによる市政への協力を呼びかける内容のパフォーマンスは、毎年の恒例となっています。

パレードはお祭り広場からニューサンロード周辺までの市道を練り歩く形で行なわれました。北海盆唄に合わせた各チームによる踊りとパフォーマンスを楽しもうと、沿道では多くの市民がイスを出して見物したり、飲み物のガラスを片手に楽しんだりする姿が見られました。

清流身近に魅力満喫

チトセリバーシティ×

ちとせ川ビール祭り

川沿いの公共空間で、市民に千歳川に親しんでもらい、その魅力を発信するイベント「チトセリバーシティプロジェクト×ちとせ川ビール祭り」が8月6～9日の4日間、千歳川河畔公園・親水公園（清水町4）とグリーンベルト（幸町4）で開かれました。初日から多くの人が訪れ、ステージイベントやビールを堪能しました。



ビール等の飲み物を楽しむ市民でにぎわいを見せました



夏にぴったりのウォーターパーク

同実行委主催。千歳商工会議所、千歳圏人会共催。観光連盟が後援しています。会場には約20の飲食店やキッチンカーが並び、市内外から集まったミュージシャンやダンスチームなどによるステージイベントが行われました。ステージでは、初日は千歳機甲太鼓の演奏を皮切りに、期間中は川崎まりさん、山本あきさんらが出演。カラオケや早食い大会が催されたほか、最終日の大抽選会が会場を盛り上げ



抽選会は大いに盛り上がりました

ました。

8、9両日は、「エコラフティング」が行われ、千歳川をボートで下り、清い流れと川面を吹く風を感じながら、涼やかな時間を過ごしました。子ども向けウォーターパークも新たに設置。水の流れる滑り台やミニプールは夏にふさわしい絶好のスポットで、子どもたちがおおはしゃぎ。水鉄砲合戦「びしょぬれキッズフェスタ」も開かれ、中心市街地をにぎわいで包みました。

JR千歳駅南口

観光案内所新装開業

まちライブラリー運営、

情報発信、パン販売も

JR千歳駅南口の観光案内所がこのほど、装いを新たに開業しました。市による地元観光振興、地域の魅力発信するスポットです。新たに市民手作りの本棚を設けたり、黒板では市内のイベントを紹介。焼きたてパンも販売しています。

市の委託を受けた一般社団法人「まちライブラリー」（大阪市）が運営しています。

案内所は木目を基調とした落ち着いたデザイン。千歳駅に降り立った観光客の目を引くような存在感です。

棚の一部は、国内外の観光客らが持ち寄った書籍を並べて交換できる取り組み「ブックエクスチェ



リニューアルした観光案内所

ンジ」として、旅行者間の交流の場になっています。また、市内の人氣カフェ「ドレモルタオ」の焼きたてメロンパンを販売し、風味豊かで好評とのこと。

専用の翻訳機を備え、棚には多言語の観光案内冊子を用意して、インバウンド（訪日旅行者）の来訪に対応できるよう準備しています。

案内所は午前9時～午後5時。年末年始を除き無休。

9月20日 開港100年

市民パレード開催

千歳駅前付近

千歳市空港開港100年記念市民パレードが9月20日、千歳駅前付近で開催します。児童・生徒、市民団体や各団体による楽器演奏やパフォーマンスを披露するほか、東京デイズニーストリートスペース、東京パレードも行なわれます。子供たちが「千歳に空港があること」に誇りを持ち、後世に伝える千歳に住んで良かったと思える一日にする考えです。航空会社やダンス、ヨサコイソーラン、市内中学校吹奏楽部のほか、警察や自衛隊の音楽隊も出演します。

ルートは中央大通・栄町7丁目交差点付近から駅前通・千代田町1丁目交差点付近の約1キロ。午前11時から市内企業・団体、正午からスペシャルパレードの予定です。

イベント情報

▼千歳神社秋季例大祭

(2026年9月1～3日、千歳神社境内、青葉公園内) 境内や参道に出店が立ち並び、千歳の秋の始まりを感謝、豊作を祈願します。神輿渡御が行われます。9月3日には市内中心部と同神社境内で、千歳巴会による神輿行事が行われるほか、期間中は稼働店や子供相撲といった奉納行事が行われます。

▼「千歳のまちの航空祭」

(2026年9月6日、航空自衛隊千歳基地) 航空自衛隊に対する理解と認識を深めるために航空自衛隊千歳基地が主催する祭です。毎回、政府専用機やF15戦闘機の飛行をはじめ、自衛隊機の地上展示などを行い、道内外の航空自衛隊ファンに親しまれています。今

年は2年ぶりにブルーインパルスの飛来も決定しました。

地上に展示した航空機を間近で見学できるほか、F15戦闘機や政府専用機による異機種編隊飛行を展開する予定。全国で唯一政府専用機が配備されている千歳基地だけに、身近で見学できる少ない航空機を間近に見学できます。音楽隊の演奏やキッズトレイン、ご当地グルメが堪能できるキッチンカーの出店などもあります。

▼インディアン水車まつり

(2026年9月26、27日、道の駅サーモンパーク千歳) 同実行委主催。多くのサケが遡上する千歳川の秋の風物詩インディアン水車と、サケ鍋などの食を楽しむ恒例のイベントです。サケ鍋、イクラ弁当のほか、特設ステージでは音楽演奏や特別なイベント等をくり広げ、訪れた市民や観光客を楽しませる予定です。

編集後記

先日、久しぶりにスープカレーを食べました。道産の野菜をふんだんに使った一皿は、北海道らしいグルメです。

初めて食べたのは、20数年前。具材入りのスープとご飯とが別々に出てきたことに戸惑いました。

「ご飯をスープの中に入れるのか?」「ルーカレーみたいにご飯にスープをかける?」と浮かぶ疑問点。一緒に行った人や他のお客さんの食べ方を盗み見て、スプーンでご飯をすくい、スープに浸すオーソドックスな食べ方を学びました。

明治時代に洋食に接した日本人も、そんな感じだったのでしょうか。ある意味、流行に疎い編集子の文明開化だったのかもしれない。(ひ)